

当館キャラクター
「ごろすけ」



巻頭言 開館100年に向けて

福島県立図書館長 大江 賢一

県民の皆さま始め市町村立図書館・公民館図書室、学校図書館、また本をご寄贈いただいている企業・団体・個人、更には当館ボランティアの皆さまには、日ごろより福島県立図書館をご利用・ご支援いただき、誠にありがとうございます。

当館は、現在の福島市森合の地に移転してから40年が経過したところですが、4年後の令和11年には、昭和4年(1929年)10月の同市杉妻町紅葉山公園内での開館から100年を迎えます。この間、多くの方々にご来館をいただき、また、支えていただいたことに改めて感謝を申し上げます。

森合移転後の当館入館者数は、今年度中に累計で850万人を超える見込みではありますが、東日本大震災前までは毎年度おおむね20万人台で推移していたものが、近年は10万人台に減少しています(令和6年度は15.7万人)。これは、いつでも・どこでも・だれでも等の観点から非来館型サービス(当館蔵書の貸出について、当館ホームページから申し込み地元図書館で受け取る「受取館指定サービス」、地元図書館等で申し込み・受け取りをする「協力貸出」、自宅まで有料で配送する「宅配サービス」など)にも力を入れてきたことがその一因とも見られますが、一方ではやはり、当館に足を運び本を手にとっていただくことも重要であり、私は以前からの当館利用者ですが、利用者の視点からも、入館者数増加に向けて携わっていきたくと考えています。

その他にも少子高齢化の進行や新型コロナウイルス感染症を契機とした生活様式の変化など、図書館を取り巻く環境は様々変わってきている中、当館では、今年3月に令和7年度から12年度までを期間とする「福島県立図書館アクションプラン(第5次)」を策定いたしました。

アクションプラン(第5次)では、継続すべきところは継続しながらも見直すべきところは見直すこととして、第4次までの「基本理念」と「4つの目標」は継承した上で、新たにDX(デジタル・トランスフォーメーション=情報通信技術の浸透が人々の生活のあらゆる面でより良い方向に変化させること)の視点を取り入れています。

【基本理念】

ふくしまの未来をひらくため、「知の拠点」として県内図書館ネットワークを支え、

県民一人ひとりの夢と学びを応援します。

【4つの目標】

- 1 県民のための図書館
- 2 子どもたちの今と未来のための図書館
- 3 市町村(図書館・公民館図書室等)を支える図書館
- 4 ふくしまを知ることができる図書館

DXに関しては、上記目標の達成に向けた取組の一部として、デジタル化の推進やデジタル資源の収集・提供など今後具体的な進め方等を検討し、順次実行に移していきます。

開館100年に向け、これからも県民の皆さまに親しまれ頼りにされる図書館、また、ふくしまの未来をひらく図書館を目指して、アクションプラン(第5次)に基づき職員一丸となって取り組んでまいりますので、当館を今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

福島県立図書館アクションプラン（第5次）策定

当館では、平成20年の『「県民を支える図書館」アクションプラン』策定を皮切りに、平成25年「福島県立図書館アクションプラン（第2次）」、平成30年「同（第3次）」、令和4年「同（第4次）」を策定、福島県立図書館が重点的に取り組むべき施策を示してまいりました。

今回のアクションプラン（第5次）は、第4次までの「基本理念」と「4つの目標」は継承した上で、新たに「福島県立図書館デジタルビジョン“図書館DX”」を示すとともに、市町村立図書館・公民館図書室等を支える役割の重要性を踏まえつつ「いつでも・どこにいても・だれにでも福島の“知の拠点”として役立つ」図書館を目指します。アクションプラン（第5次）の大枠は以下のとおりです。

◆ 基本理念

ふくしまの未来をひらくため、「知の拠点」として県内図書館ネットワークを支え、県民一人ひとりの夢と学びを応援します。

◆ 4つの目標

基本理念の実現に向けて、「福島県立図書館が目指す4つの目標」を定め、これに向けた取組を進めるとともに、新型コロナウイルスをはじめとした感染症拡大時や災害時にも継続したサービスを実施することができるよう、非来館型サービス（図書館に行かなくても利用できるサービス）の促進と、デジタルを活用した情報発信・図書館運営の強化に努めます。

1 県民のための図書館

福島県立図書館は、資料・情報を収集し、保存し、提供することで、県民の役に立つ図書館を目指すとともに、年齢、障がいの有無などにかかわらず、あらゆる県民が等しく利用できる図書館を目指します。

2 子どもたちの今と未来のための図書館

ふくしまの未来を担う子どもたちのために、資料を収集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的・対話的で深い学びを支えることができる図書館を目指します。

3 市町村（図書館・公民館図書室等）を支える図書館

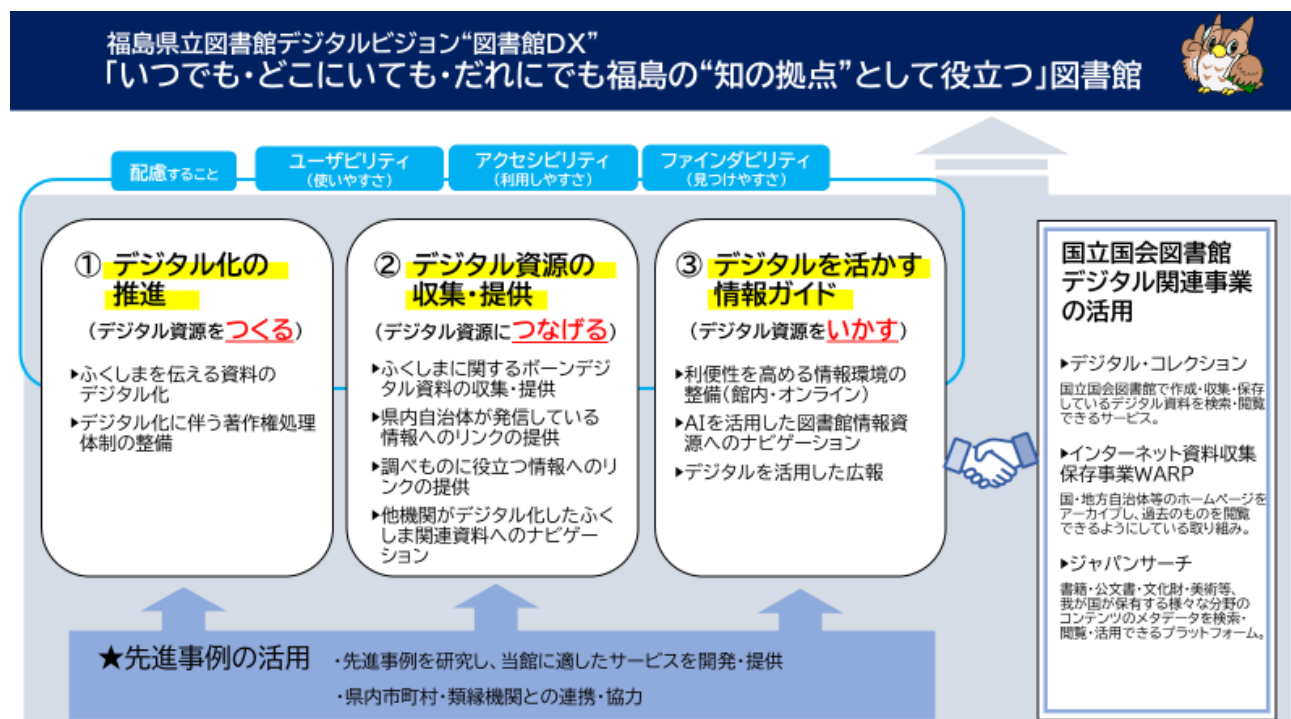
県民がどこにいても図書に親しみ、また、生活、学習、事業などに必要な資料を利用できるように、県内の図書館・公民館・学校を支え、ネットワーク体制を強化し、全県的な図書館活動の振興を目指します。

4 ふくしまを知ることができる図書館

「ふくしま」の資料・情報を収集し、保存し、提供することで、将来にわたり、いつでも、どこにいても「ふくしま」を知ることができる図書館を目指します。

◆ 福島県立図書館デジタルビジョン“図書館 DX”

所蔵資料のデジタル化や、利便性を高める情報環境の整備を進め、「いつでも・どこにいても・だれにでも福島」の“知の拠点”として役立つ「図書館」を目指します。



1 デジタル化の推進(デジタル資源をつくる)

当館が所蔵する地域資料・希少資料をデジタル化し、デジタルアーカイブで公開します。

2 デジタル資源の収集・提供(デジタル資源につなげる)

インターネット上で提供されている、ふくしまに関する資料・情報を収集することに加え、それらの資料・情報へアクセスしやすいようにリンクの提供やナビゲーションを設置します。

3 デジタルを活かす情報ガイド(デジタル資源をいかす)

当館ホームページからの利用登録に対応する等オンライン環境を整備するほか、SNS等デジタルを活用した広報に取り組みます。

これらの目標を実現するために各種事業を実施してまいります。どうぞご期待ください。

※福島県立アクションプラン(第5次)の詳しい内容は、福島県立図書館ホームページをご覧ください。
(トップページ>「図書館案内」>「図書館情報」>「アクションプラン(第5次)」)

森合移転 40 周年記念事業報告



森合移転 40 周年記念

福島県立図書館は、昨年 7 月 22 日に現在の場所（福島市森合）に移転開館して 40 周年を迎えました。これを記念して、令和 6 年度に「福島県立図書館 森合移転 40 周年記念事業」を実施しましたので、以下に主な内容を報告します。

1. 事業実施期間

令和 6 年 7 月 5 日（金曜日）から 12 月 4 日（水曜日）

＊メイン期間：令和 6 年 7 月 5 日（金曜日）から 7 月 31 日（水曜日）

2. 事業内容

（1）イベント

●子どものための図書館見学

4 歳から小学生までの子どもとその保護者を対象に、普段は入れない書庫を特別に案内しました。見学中に行った図書館クイズが好評でした。

〈実施日時〉7 月 25 日（木曜日）11 時から 11 時 30 分

●図書館見学ツアーと大人のためのミニおはなし会

公開図書室と普段は入れない書庫を案内しました。移 pp 転 40 年にちなみ、図書館建築の特色を加えて当館の魅力を説明しました。見学終了後、大人のためのミニおはなし会を第 1 研修室で行いました。

〈実施日時〉7 月 27 日（土曜日）10 時 30 分から 11 時 30 分



記念品の配布

当館のマスコットキャラクター・ごろすけを描いた特製しおりを各カウンターに設置してメイン期間内に配布しました。



また、文庫本サイズの特製ブックカバーまたはポストカードを記念イベント（見学ツアーやクイズラリー、福島を生きる講座）の参加者の皆様に特典として配布しました。

●ごろすけと一緒にクイズに挑戦！福島県立図書館クイズラリー



マップをもとに、館内を巡りながら掲示されたクイズを解き、キーワードを完成させるクイズラリーを行いました。キーワードを完成させた方には、記念品（ポストカードかブックカバー）を配布しました。お子さんを中心とした家族での参加が多く、楽しそうに館内をめぐる様子が見受けられました。

〈実施日〉7月27日（土曜日）、28日（日曜日）

●福島を生きる講座

当館では例年、県民が福島について知識を深め新たな活動につなげることができる講座「福島を生きる講座」を開催しており、昨年度は移転40周年事業の一環として開催しました。

- ・第1回「藤田浩子さんの語りの世界」

講師 藤田浩子 氏（幼児教育専門家）

- ・第2回「ふくしまの建築の昭和—福島県立図書館が生まれたころ—」

講師 速水清孝 氏（日本大学工学部 建築学科 教授）

- ・第3回「300年にわたる土地争い—大沼郡桑原村と宮下村の入会争論—」

講師 山田英明 氏（公益財団法人福島県文化振興財団 歴史資料課 主幹）

（2）展示

●『館報あづま』で振り返る福島県立図書館森合移転40周年



当館発行物である『館報あづま』の記念号や主要な出来事について記録されている号を時系列に展示し、40年のあゆみを振り返りました。

また、『図書館だより』や開館当時のポスターなどの資料も一緒に紹介しました。

〈実施期間〉7月5日（金曜日）から9月4日（水曜日）

●新聞に見る福島県立図書館森合移転40周年

1970年代後半に県立図書館移転整備計画が動き出してから、建設地の決定、着工、建物の完成、そして移転開館当日をどのように迎えたか、その様子をうかがえる当時の新聞を展示しました。

〈実施期間〉10月4日（金曜日）から12月4日（水曜日）

※本事業の詳しい内容は、当館発行『福島県郷土資料情報 No.65 2025年3月』をご覧ください。
（当館ホームページ「図書館刊行物」でも公開しています）

福島県地域資料 寄贈のお願い

福島県立図書館では、郷土の過去・現在を未来へ伝える資料として、福島県に関する資料や福島県にゆかりのある方の著作物を収集・保存し、県内外の方にご利用いただいています。

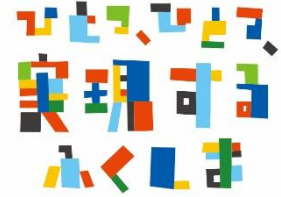
地域資料とは次のような資料です。

- ・福島県や県内各地域に関する資料（歴史、民俗、地誌など）
- ・福島県内企業・団体・行政機関等の発行した資料
- ・福島県内に在住する方、または福島県出身の方の著作
- ・福島県にゆかりのある方の伝記

※ 図書だけでなく、フリーペーパー、雑誌、地図、パンフレット、CD、DVD などにも収集しています。

※ 東日本大震災に関する資料は特に重点的に収集しています。

上記のような資料を刊行された際は、当館へ **2 部**（保存・貸出用）ご寄贈いただけるとたいへん嬉しく思います。また、地域資料の蔵書を処分される際にも、ご一報ください。



図書寄贈の記録

以下の団体をはじめ、多くの方々から図書のご寄贈をいただきありがとうございました。

寄贈いただいた資料は、当館の活動を通じて広く県民の皆様の利用に供してまいります。

県民のくらし応援文庫

- 福島発電株式会社 様 104 冊(20 万円相当) [令和 6 年 8 月 20 日]
- 大槻電設工業株式会社 様 54 冊(10 万円相当) [令和 6 年 10 月 11 日]
- 一般財団法人ふくしま未来研究会 様 260 冊(50 万円相当) [令和 7 年 1 月 17 日]
- 佐藤由美 様 264 冊(50 万円相当) [令和 7 年 1 月 29 日]
- 福島ヤクルト販売株式会社 様 27 冊(5 万円相当) [令和 7 年 2 月 21 日]
- 福島発電株式会社 様 105 冊(20 万円相当) [令和 7 年 8 月 27 日]

その他の寄贈

- 国際ゾンタ福島ゾンタクラブ 様 22 冊(5 万円相当) [令和 7 年 2 月 7 日]
- 国際ソロプチミスト福島 様 54 冊(10 万円相当) [令和 7 年 2 月 27 日]
- 日産自動車株式会社 様 124 冊(県立・市町村図書館、公民館分) [令和 7 年 3 月 13 日]

○県民のくらし応援文庫へのご寄贈のお願い○

「県民のくらし応援文庫」は、県民の皆様のくらしや地域づくりを応援するため、「育児活動支援」「健康長寿支援」「まちづくり支援」「防災活動支援」の 4 テーマで図書をご寄贈いただく制度です。ご寄贈図書への記名などの制度もありますので、ぜひ多くの皆様のご賛同とご協力をお願いします。

『福島県立図書館報あづま』 第 74 巻（通巻 278 号）

令和 7 年 10 月 10 日

発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島県福島市森合字西養山 1 番地

電話 024-535-3218(代表) URL <https://www.library.fcs.ed.jp/>